

## 令和2年度第2回水道事業運営審議会

### 1 開催日時

令和2年11月24日(火) 10時00分～11時40分

### 2 開催場所

柏市柏下65番地1

ウェルネス柏4階 研修室

### 3 出席者

#### (1) 委員

堀田委員, 山田委員, 中島委員, 阿部(秀)委員, 小宮山委員, 清水委員,  
阿部(孝)委員, 根本委員, 大塚委員, 枡富委員, 柳瀬委員

#### (2) 事務局

成嶋水道事業管理者, 荒巻総務課長, 安達給水課長, 柳本配水課長, 宇賀野  
浄水課長・水道技術管理者, 他

### 4 議題

#### (1) 柏市水道事業ビジョンの中間見直しについて

### 5 報告事項

#### (1) 準中型運転免許取得助成について

#### (2) 指定給水装置工事事業者更新制度の施行状況について

### 6 議事

#### (1) 柏市水道事業ビジョンの中間見直しについて

質疑

(中島委員)

Q. 11ページの財政状況の推移で, 収益的収支の動きをみると, 平成26年度以降20億円の黒字を維持しているが, それ以前の平成22年度から平成25年度と比べ黒字が多くなっている。平成25年度から26年度にかけて黒字が大きくなった理由は何か。

A. 平成26年度に公営企業の会計制度が変わり, それまで収益に見込まなかった長期前受金を見込むこととなったことと, 修繕の引当金を一旦戻し入れたことにより黒字が大きくなっている。それ以降は, 実際現金の収入ではないが, 補助金などが減価償却の中にいくら含まれているかを明らか

にするために収入として計上している。

(堀田会長)

Q. 水道管路の老朽化については、今回の計画の期間の中では対応ができており、それほど心配する状況でないとわかるが、一方、別紙2の6ページの管路の健全度の図をみると、長期間では、2055年度くらいにはかなり管が古くなることが判る。古い管路が増えても大丈夫との説明だが、実際どれくらい信頼してよいのか。耐用年数が長いダグタイル铸铁管は、本当に100年更新しないで安全性が担保されていると言えるのか。また、この計画の期間の中で、今できることは本当にこれで最善なのか。

A. 管の入替を実施している状況から、ダグタイル铸铁管については、現状70年や80年よりも長く使用可能なのではと思っている。一方、塩ビ管は40年できっちり更新していく必要があると考えている。管路の更新基準年数表の信頼性の説明は難しいが、もう少しいい数字になるのではと思っている。ビジョンの期間は10年だが、管路についてはこの先50年を見据えており、55年間をもって管の入替を終わる計画となっている。実情を見つつ臨機応変に見直していきたい。

(山田委員)

Q. コロナ禍の影響で電気・ガス・水道・道路などライフラインの工事の遅れ、環境整備がやりにくくなる等の状況がある。採算性からすれば一括して連携を図って行った方がよいのではという意見があるがどうか。

A. ガス電気水道などの工事を一度にできるともちろん良いが、埋設管の工事で掘削したところは毎日埋め戻している。人口の少ないところでは掘削したままにしているところも見られるが、都市部では難しい。令和4年度から下水道との組織統合を予定しているので、より密接に連携を行ってきたい。また、道路部局とも連絡を取っており、なるべく一度で舗装ができるように取り組んでいる。

(山田委員)

Q. 技術の向上もあるが、技術の担い手が将来少なくなって来る懸念がある。しっかりと計画的に管理していただきたい。

A. 現場では管工事業者の高齢化は心配な状況だが、一方で若い職員も頑張っている。市全体でも中間層が少なくなっており、教える人数と教えられる人数のバランスが悪くなっている。また職員が減り委託業務が増え、職員が自ら施工を行わないための技術低下も問題として把握している。

(阿部(孝)委員)

Q. ビジョンの評価について、内部評価だけでなく外部評価も必要と思うが、評価の仕組みはどうなっているのか。

また、将来的に日本の人口が減っていき、学校であるとか様々なものが過剰設備となる。そうなったときに負の財産をどうやって分配するのか。社会の大きな流れが変わっていることを視野に入れた表記にする必要があるがどうか。

- A. 現在の評価の仕組みは内部評価が中心であり、外部に対しては計画を立ててパブリックコメントを実施したり、ホームページで公表するなどの発信が主であって意見を聴取する機会があまりない。課題として認識しており、検討していかなければならない。長期的見通しについては、事業のさらなる効率化や民間活用、事業の広域統合、連携など、計画を見直す中で必要な取り組みについて長期的な観点に立って検討していきたい。

(堀田会長)

- Q. 長期的な推移については、もともとビジョンが策定されたときにもあった視点であり、ビジョンに含まれていたと思う。一方どの施設・地域を対象とするかは難しい問題であり、柏市ではコンパクトシティ等の計画もあるが、こうした他の計画との整合も図りつつダウンサイジングが必要であれば随時検討していくという話だったと思う。具体的な想定は困難と思うが、今回後期計画を作成するにあたっては、前期5年間で踏まえ、現時点で想定できる範囲において改めて検討するべきである。

- A. ダウンサイジングについて、今までは、家が建った地域に水道管を整備することを考えていたが、今後は家がなくなった地域を想定しなければならない。メンテナンス上の対応を考えるのは非常に難しいが、管の補足について現在検討している。

(中島委員)

- Q. 令和2年度の収益的収入の見通しが令和元年度より上がっているが、感染症により社会状況が変化しており、来年、再来年に渡って税収が下がる見込みとされている。ビジョンの中で感染症対策、水道事業における減免措置はないのか。

- A. 感染症対策について、水道はもともとしっかりと注意を払い、安心して使ってもらえるよう安定した供給を続けることとしており、また今回については、職員には感染症対策をしっかり講じるようにさせている。減免措置については、市では税収が下がれば政策を見直し、事業を絞っているが、水道は掛る費用をもとに料金を設定しており、料金を減免した場合に減免した費用のしわよせをどこに置くか等の問題があり、減免に踏み込むのは難しい。今回のコロナの関係では支払いの猶予などの相談を受けるようにしている。

(2) 準中型運転免許取得助成について

質疑

(松富委員)

Q. 事業の対象は毎年増やしていくのか。今後どういった形で行っていくのか。

A. 人事異動や退職・採用があり、給水車を運転できる職員を一定数確保するため毎年実施する。特に若い職員について、新しい基準の普通免許では保有するほとんどの給水車に乗れないので今後も継続する必要がある。また、下水道部門の職員も組織統合した際は運転ができるようにしていきたい。

(3) 指定給水装置工事事業者更新制度の施行状況について

質疑

(なし)

7 傍聴

傍聴者 1 名